

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立四日市南高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		高い志と豊かな人間性を育てることを基本に、一人ひとりの可能性を引き出し、自己実現と進路実現を図る。
(2)	育みたい 児童生徒像	○明確な目的意識を持ち、主体的・協働的に学び、学ぶ楽しさを感じながら互いに高めあっている姿。 ○ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、特別活動などに積極的に取り組み、これらを通じて豊かな感性、人権意識、他者への思いやり、忍耐力、コミュニケーション力、向上心などを身に付け、社会に貢献する意思と力を得ている姿。
	ありたい 教職員像	○高い志と豊かな人間性を備えた生徒たちの自己実現・進路実現を図るため、関心や意欲を引き出し、知識・技能を伝え、思考力・判断力・表現力を高める教育活動を展開するとともに、自らも学び続ける教職員集団。 ○地域及び家庭との連携を積極的に図り、社会からの信頼を築く努力をし続ける教職員集団。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> ○すべての教育活動を通じての充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><保護者> ○すべての教育活動を通じての子どもの充実した学校生活と自己実現・進路実現。</p> <p><地域> ○地域の諸行事への生徒の積極的な参加による地域の活性化と、それらを通じた地域の未来のリーダーの育成。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> ○子どもの様子や進路情報等の積極的な発信。</p> <p><中学校> ○卒業生の様子、本校の教育活動、高校入試情報等の積極的な発信。</p> <p><地域> ○地域活性化のための諸行事への積極的な参加。施設開放。</p>		<p><保護者> ○本校教育活動への理解と協力。基本的な生活習慣の確立と家庭内学習環境の整備。</p> <p><中学校> ○本校への期待と中学生の進路希望にかかる動向の共有。本校受検生の基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立。特に配慮を要する生徒にかかる情報共有。</p> <p><地域> ○本校教育活動への理解と協力、本校に不足する教育力の提供、本校の教育活動にかかる情報共有。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		「ホンモノ体験」として行っている企画に対する高い評価をいただいた。学校が変わってきている姿は大いに感じる。生徒が考え、まとめ、伝える力をつけてきている。今後はフロントランナーとして四日市から三重県全体に取り組みを進めるとともに、先生たちにも生徒の姿をもっと見てもらうことでさらに進んだ組織としての取り組みまで発展させることを期待したい。	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○学習・学校行事・部活動等、本校の教育活動全般にわたり、真面目に取り組む生徒が多い。社会の変化や高大接続改革を踏まえ、知識・技能とともに、思考力・判断力・表現力のさらなる伸長を図る必要がある。</p> <p>○生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育等を通じ、社会的スキルを有し、自他を大切に、互いを勇気づけられる生徒の育成を進めている。</p> <p>○社会的もしくは人間関係上の課題、心身の成長にかかる課題等から、特に配慮が必要な生徒に対して、教職員間および関係機関等との連携・協働のもと、対応を進めている。さらに十分に、組織的な対応を進める必要がある。</p>	

学校 運営等	○地域との連携を核にした生徒の主体的・探究的な学びの深化を進めてきたが、新しい取組を教職員の中のプロジェクトチーム的な取組として進めてきた。中長期的な地域の生徒数減少を視野に入れながら、学校全体の取組としてのより組織的な進め方に改変していく必要がある。
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	○高い志と豊かな人間性の育成 キャリア教育のさらなる充実等を通じて高い志を育み、学力向上を図ってその実現を推進する。これとあわせて、学校行事、生徒指導、ホームルーム活動、人権教育、主権者教育、命を大切にする教育、部活動等を通じて豊かな人間性を育み、知・徳・体の調和がとれた、これからの社会を生き抜く力を持った生徒の育成に取り組む。
学校運営等	○教育改革への対応 新たな大学入試制度、新しい学習指導要領が目指すもの等に的確に対応し、授業力・指導力等の向上のために、授業公開と協議、研修会への参加、OJT等により、教職員のスキル向上、指導体制の整備に取り組む。 ○組織力の向上 「生徒第一」「全体最適」の視点から安全安心な学習環境を構築するとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、中長期的な地域の生徒数減少を視野に入れながら、教職員間および地域とのより適切な協働を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
キャリア教育の充実と生徒ひとり一人の自己実現・進路実現)	<p>1) 初期指導の充実を目指し、「学習のてびき」をもとに3年間の進路ストーリーを示すとともに、発達段階に合わせ進路講話・進路講演会を効果的に実施し、高度な学問への夢を引き出せるよう取り組む。</p> <p>2) 個人面談の充実、部活動・特別活動・大学オープンキャンパスへの積極的な参加や課外授業への受講奨励など、進路カウンセリングをすすめることにより、希望進路の実現、将来の社会貢献のための真の学力向上を図る。</p> <p>【活動指標】各学年年6回の個人面談の実施、定期的な進路説明会・講演会の実施。</p> <p>【成果指標】生徒の高校生活全般への満足度90%</p> <p>3) 外部教育力を積極的に取り入れ、外部機関と</p>	<p>○「進路指導年間行事計画」に基づいた進路行事等を中心に、新たな大学入試制度に関する情報も含め、各学年・クラス単位でのキャリア教育をすすめることができた。また1学年より一人ひとりの活動記録「ポートフォリオ」を導入した。</p> <p>○各学年年6回の面談の実施、全体(生徒・保護者対象)で計20回の説明会・講話・講演会の実施</p> <p>【生徒の高校生活全般への満足度】90.0%</p> <p>○とくに外部機関との連携による探究</p>	◎

	<p>の連携による「ホンモノ体験・本気体験」を通じて、地域で活躍する大人の志や高い専門性に触れることにより、より広い視野を身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】 学校外における各種学習会研修会、行事への参加</p> <p>【成果指標】 参加生徒人数100名</p>	<p>的・体験的活動のべ18回実施</p> <p>【外部連携による活動参加生徒数】のべ155人</p>	
学習指導の充実	<p>1) 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業により、将来にわたって通用する学力の向上を図る。</p> <p>2) 「予習→授業→復習」の学習サイクルに基づいた学校（授業）中心の学習習慣を定着させるよう取り組む。</p> <p>3) 生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【活動指標】 生徒による授業等の評価の実施</p> <p>【成果指標】 生徒の授業への理解満足度90%</p>	<p>○個々の教職員の授業改善への取組はすすみつつあり、生徒の主体的な授業参加に良い影響を与えてはいるが、全体的な取組としては十分とはいえない。</p> <p>【生徒の授業への理解満足度】85.6%</p>	◎ ※
豊かな人間性と高い志の育成	<p>1) 自他の命の大切さについて様々な機会に触れ、いじめのない安全安心な学校生活を営むことができるよう、命を大切にす教育にかかる指導計画・学校いじめ防止基本方針等に基づき取り組む。また、マナーや挨拶・服装指導を通じて、社会人としての品性を身につけられるよう取り組む。</p> <p>【活動指標】 各学期のいじめに関するアンケートの実施</p> <p>2) 「NOLTY スコラ（手帳）」を積極的に活用することで、学習時間と部活動等を軸とする生活リズムの確立と自己管理能力の育成を図る。</p> <p>3) 学年・ホームルーム経営、学校行事への取組、部活動、人権教育、保健指導、教育相談、特別支援教育、読書指導等を通じて、自己肯定感の涵養、豊かな社会性の育成を進める。また、特に大きな課題、重い課題、個別の課題を抱えた生徒に対しては、必要に応じて専門機関等と連携しながら、適切に支援する。</p>	<p>○今年度新たに「命を大切にする教育年間指導計画」を策定し、自他の命の大切さや他者と連携・協働し、これからの時代を主体的に生き抜く力を身に付けることを目指した取組をすすめることで、いじめのない落ち着いた学習環境が保たれている。</p> <p>○積極的に教職員間の情報共有をすすめながら、特別な支援を必要とする生徒に対して、心身ともに安定した学校生活を送ることができるよう取り組むことができた。</p>	◎ ※

改善課題

生徒に寄り添ったきめ細かな学習指導、進路指導、生活指導等により、落ち着いた学習環境が保たれている。外部教育力を積極的に取り入れた「探究的・体験的活動」により、主体性・論理的思考力・協働性・表現力等これからの社会を生き抜くための力を伸ばすことができた。

生徒の進路希望実現、高い志、学力向上を目指し、キャリア教育を推進するとともに、新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応した授業改善、進路指導をより充実させる必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織力の向上	<p>1) あらゆる教育活動に関し、教職員間の積極的な情報共有を進め、職員が一丸となって取り組むことのできる体制をつくとともに、保護者や地域との連携により開かれた学校づくりを推進する。あわせて、教職員間および地域とのより適切な協働を進めつつ、一層効果的かつ効率的な組織運営を進めていく。</p> <p>【活動指標】職員会議を中心に、各委員会・各学年会・各分掌会での積極的な情報共有</p> <p>【成果指標】職員の情報共有に対する満足度 75%</p>	<p>○進路指導のみならず、各種会議での情報共有、意思疎通を図り、組織的に取り組める体制づくりをすすめることができたが、個々の教職員の力量に頼った取組も見受けられる。</p> <p>【職員の情報共有に対する満足度】66.7%</p>	◎
専門性の向上	<p>1) カウンセリング・コーチング・特別支援教育等に焦点をあてた現職教育を実施し、教職員のこれらにかかる専門性の向上を図る。</p> <p>2) 新学習指導要領への対応を意識したカリキュラムマネジメントを整備活用し、授業改善に向けた専門性の向上を図る。</p> <p>3) 高大接続、大学入試制度改革等の情報を積極的に集め、また現職教育や校外研修に積極的に参加し、学習指導・進路指導・生徒指導等の専門性の向上を図る。</p> <p>【活動指標】各種現職教育の実施、校外研修への参加</p> <p>【成果指標】職員の専門性向上への満足度 90%</p>	<p>○校内現職教育(特別支援教育、人権教育、コンプライアンストレーニング等)や各種校外研修(授業改善、進路情報交換、入試分析等)への積極的な参加により、幅広い情報や知識が集められ、生徒への指導や対応に活かされている。</p> <p>【職員の専門性向上への満足度】70.8%</p>	◎
働きやすい職場環境づくり	<p>1) チームで仕事を分け合える体制づくりをすすめるとともに、職務内容や会議の精選等を行う。</p> <p>2) 月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日を設定し、総勤務時間の縮減を図る。</p> <p>【活動指標】月に一度の定時退校日、週に一度の部活動休養日の実施、放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 95%</p>	<p>○教職員のワーク・ライフ・バランスを図りながら、効果が高く、効率の良い教育活動をすすめながら、総勤務時間の縮減を目指した業務改善への取組をすすめることができた。</p> <p>○本校「部活動運営方針」を策定し、計画的な部活動運営と共に、適切な休養日を設定することで、総勤務時間の縮減を目指した。</p>	◎ ※

	【成果指標】時間外労働時間 4 時間／月削減、休暇取得日数 1 日／年増加、月 80 時間を超える時間外労働者をのべ 2 人削減	【教職員一人あたり月平均時間外労働時間数前年比 2.7 時間増】 【教職員一人あたり休暇取得日数前年比 0.1 日減】 【月平均 80 時間を超える時間外労働者数前年度比のべ 10 人減】
情報発信	1) 地域に対して、積極的に情報発信・情報提供を行う。その手段の一つとして、学校 Web ページをより適切に運用する。	○学校行事、「探究的・体験的活動」等を中心とした行事紹介を年間約 50 回の情報発信により行った。

改善課題

教職員個々の取組によって改善は図られているものの、「組織力」にまで十分に高められない。さらなる情報共有やノウハウを引き継ぐ体制づくりを推しすすめる必要がある。

業務改善、総勤務時間の縮減を目指した教職員の意識は高いが、生徒に対するきめの細かい様々な指導に費やす時間は長く、総勤務時間の縮減も困難なものとなった。近い将来募集定員、教職員数の減少が見込まれる中、さらに取組をすすめていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「深い学び」を目指したさまざまな取組はたいへん充実しており、生徒の成長につながっている。 ○教職員が生き生きと仕事に打ち込んでこそ、生徒も生き生きと学校生活を送ることができる。やりがいをもって働くことのできる環境整備もすすめてほしい。 ○校舎の老朽化に伴い、学校安全、生徒の学習環境への影響が大きいと聞く。場当たりの修繕ではなく、改築改修に向けた要望もよりすすめてほしい。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領、新大学入試制度に対応するため、「主体的で、対話的な深い学び」を目指した授業改善を積極的にすすめる。 ○プロジェクターの各教室への設置などの ICT 機器の整備を目指す。 ○これからの社会を生き抜く力の育成を目指し、地域連携型「探究的・体験的活動」をより充実させる。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌、各種委員会の構成員の再編や質を落とすことのない業務の精選、業務分担の平準化等をすすめながら、組織力の向上を目指す。 ○総勤務時間の縮減に向けた業務改善への取組をすすめる。